

平成29年度 学校評価（年度末評価）

栄徳高等学校

<p>校訓 「誠実で信頼される人に」</p>	<p>めざす学校像 ・夢を実現させる学校 ・豊かな人間性を培う学校 ・健康な心身を育む文武両道の進学校</p>		
<p>教育目標 常に明確な目標を持ち、真剣に事に当たる習慣、豊かな人間性、強い気力と体力、幅広い知性を身につける。</p>			
評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び次年度への課題
<p>国際交流・グローバル化及び「協働・組織」意識の構築 ＜総務部＞</p>	<p>1 28年度のアンケートから、魅力ある独自性のある教育活動の再構築</p> <p>2 「協働・組織」意識の構築とガバナンス強化</p> <p>3 校内のグローバル化推進</p> <p>4 初任・2、3年経験者研修による資質能力指導力の向上と計画的実施</p>	<p>1 栄徳アンケートの継続的実施と魅力的な学校作りへの提言と生徒の学力及び人間力向上に寄与する研修の推進及び校外研究会への参加及び校内研究会の実施（教員意識の変革・分掌部長・主任研修を通じてのリーダーシップ研修・マネジメント研修）</p> <p>2 ホームページの充実</p> <p>3 校内インフラ整備による省力・「個」から「組織」への意識作り</p> <p>4 NZ・韓国姉妹校との連携作り、語学研修等の実施による雰囲気作り</p> <p>5 教員としてのより高い資質向上と育成を目指す。また、初任者研修、2年目研修、3年目研修と経験年数に応じてより有効的な研修を企画する。</p>	<p>・ 1 2月実施、3月報告。また、教員研修として、新しい学習指導要領に対する心構えとして、外部講師を招聘して講演を行った。</p> <p>・ さらに変革を期待した研究・研修を実施したい。</p> <p>・ 部活動・学校行事を中心とした、生きた情報を発信した。写真などの情報更新が遅延気味。早々に修正を考えたい。</p> <p>・ CLASSIの活用による部会のペーパーレス化に取り組んだが、さらに深めて活動する必要がある。</p> <p>・ 韓国との部活動交流を行ったが、参加生徒には大変いい経験になった。泳薫高校との今後の連携を考える必要がある。NZの姉妹校との交流、カナダへの3ヶ月留学、フィリピン語学研修を実施、今後が期待される。</p> <p>・ 各研修とも計画的に実施できた。それぞれの研修において、課題は若干残るところがあるものの、新任の先生方の指導力向上に寄与しているものと考えている。</p>

評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び課題
学習指導 ＜教務部＞	1 カリキュラムの再編 2 IT化に向けての対応	1 大学入試新テスト(H32年度実施)に向けたカリキュラムの再構築 2 情報センターと協力して校務システムの円滑な利用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体のグランドデザインの再考にあわせたカリキュラムの再考が必要。 成績処理、出欠統計なども校務システムで行ったが、さらなる改善点を検討。
	1 再試・追試・追認 考査の受験者の減少	1 日頃の学習の成果が定期考査に反映されているかの確認 2 考査前後の教科指導の時間の確保 3 考査を受験する姿勢の確立	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準を公務システムに合わせたため、成績不振者の数は減った。評価の仕方が妥当であるかの検証を行った結果、一部の修正は加えるものの、来年度も同じ形で評価を行う。 教務内規の一部を改訂し、定期考査をさらに重視させる。
	1 基礎学力の向上 2 授業内容の充実および授業スキルの向上	1 定期考査、スタディサポート、基礎力診断テストの分析・検討 2 義務教育内容の学び直しの機会の設定(リメディアル講座の実施)など 3 教科会の充実 4 研究授業、公開授業の実施シラバスの再検討	<ul style="list-style-type: none"> 教科ごとのさらに細かく、具体的な検討が必要。 次年度は講座制補習の中に講座を設け、最初から実施予定。 時間割の中に教科会を組み入れるのが困難なため、土曜日などを活用して積極的に教科の充実をはかる。 研究授業、研究授業協議会を2学期に実施予定、従来の研究授業の期間中は新人研修を中心に行う。
	図書課主任 1 利便性の向上 2 利用の促進 3 図書委員会活動の充実	1 蔵書の整理をすすめ、生徒の要望を取り入れながら利便性の向上を図る。 2 17時以降は学習室として開放し、教員が交代で常駐することで利用の促進を図る。 3 図書館便りを発行し、啓発活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 利便性は高まり利用者数も増加傾向にある。次年度もさらなる充実を図る。 17時以降の利用数は増加の傾向にある。来年度も継続して実施予定。 継続し、さらなる充実を図る。

評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び課題
<p>生活指導 および 特別活動 《生活指導部》</p>	<p>生活指導部</p> <p>1 ルールを守る、マナーを考えた行動、エチケットを意識した対人関係を築くことを生活指導の基本とし、規律ある学校生活の確立につとめる。</p> <p>2 交通事故防止を基本とした通学指導の徹底を図る。また、公共交通機関内でのマナーも併せて指導する。</p> <p>3 いじめのない安心 ・安全な生活を保証する。</p> <p>4 生活指導を通じ、地域、保護者から信頼される学校を目指す。</p> <p>5 積極的に参加できる学校行事を通じ、活力あふれる学校生活を目指す。</p> <p>6 部活動指導を通じ、礼節、思いやり、努力を学ばせ、学校全体の士気を高める。</p> <p>7 問題行動発生時の生徒への対応を指導部の統一した意思統一を図り、あわせて再発を防ぐ活動を行う。</p> <p>8 生徒・保護者に対しての指導・対応の研修会の実施および教員全体の統一意識の構築</p>	<p>1 頭髪指導。(8回)</p> <p>2 挨拶、みだしなみ重点指導週間(5回)</p> <p>3 街頭指導。</p> <p>4 校内巡回。</p> <p>5 指導カードを通じた規律ある学校生活への指導。遅刻指導カード導入し、遅刻の減少を目指す。</p> <p>6 性犯罪防止講話を通じ、犯罪に巻き込まれない意識、また危機感を持たせる。</p> <p>7 薬物防止講話を通じ、薬物の危険性を認識させる。</p> <p>8 マナー講座を通じ、社会人としての自覚と意識を高める</p> <p>9 交通安全講話を通じ、交通事故に遭わない、起こさない意識を高める。</p> <p>10 自転車車体検査を通じ、安全のために車両整備の必要性意識を持たせる。</p> <p>11 自転車通学者に対して、交通指導を実施する</p> <p>12 サイバー犯罪防止講話を通じ、SNSに潜む危険性を認識させるとともに、他に配慮した使用法・使用時間など、マナーを考えさせる。</p> <p>13 必要に応じて指導部長による講話を実施する。</p> <p>14 いじめ防止基本方針、いじめ相談メールをホームページに掲載して、いじめの早期発見・早期防止に努める。</p> <p>15 部活動所属率の向上のための広報活動</p> <p>16 学校全体で応援する体制を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年主任からは少なくなった感をうけるとの意見をもらっているが、今後も厳密な指導を継続していきたい。 ・ 日々の生活に生かされるよう学年団の協力をいただきながら継続していきたい。次年度4月に集中する講話を分散したい。 ・ 継続して安全・マナーの徹底を発信していきたい。次年度は、通学手段について安全、マナーのガイドラインを発行する。 ・ 担任を通じ定期的に生徒へ指導の発信を継続していきたい。 ・ いじめについては、担任からの報告を受け、早い段階で事実確認と指導を行えている。担任・教科担任と連絡を密にし、迅速的確な対応を心がけていきたい。 ・ 生活指導ガイドラインを作成予定である。

<p>1 安心・安全な学校生活</p> <p>2 授業規律の徹底</p>	<p>1 本校の根幹である「安心・安全な学校生活」を実現するために担任は、学年主任・保護者と連携をとり、迅速な対応ができるよう準備する。また、生徒を対象とした各種の講話や学年集会などを通じ生徒に啓発していく。</p> <p>2 学びたいという気持ちを持った生徒が、落ち着いて学習できる環境を作るために、教科担当との意見交換を行い、授業規律の構築に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「安心・安全な学校生活」の実現のために迅速な対応ができるよう課として準備できたと認識している。また、生徒を対象に講話を通じ様々なことを啓発したが、年度当初に1年生の交通事故が目立った。 ・全学年の各科目の時間において比較的落ち着いた環境であったと思う。
<p>1 行事における役割を考え、主体的に行動できる生徒の育成</p> <p>2 部活動における自己鍛錬、人間関係を通して豊かな人間性、社会性を育む</p> <p>3 行事、部活動で活発に活動する生徒の姿を通して、地域へ本校の存在を発信する。</p>	<p>1 学習とともに、行事をクラス運営の主軸として位置づけてもらう。(行事全体)</p> <p>2 主体的に行事に参加させ、クラスメートと協力して1つのことを成し遂げることで、達成感を感じさせる。(行事全体)</p> <p>3 生徒会執行部に運営進行を任せることで、生徒会執行部の責任を認識させる。(行事全体)</p> <p>4 福祉関係の行事に参加させることで、生徒の福祉への意識を高める。(文化祭)</p> <p>5 中学生の招待や近隣住民への宣伝など地域に本校をアピールする。(文化祭)</p> <p>6 近隣中学の管理職の先生方に行進などを見ていただくことで、本校の生徒指導のあり方をアピールする。(体育祭)</p> <p>7 芸術を鑑賞することで芸術的感性を養う。(芸術鑑賞)</p> <p>8 様々な行事を通じて、普段の学校生活の中では経験し得ないことを体験させ人間性の向上を図る。</p> <p>9 部活動へのサポート、各部活動への生徒の参加を奨励し、活発な部活動を対外的にアピールする。</p> <p>10 生徒を積極的に地域と関わらせ、生徒の社会性を養うとともに、本校の存在を地域に発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事全体を通して、活気のあるものに変化し、生徒は各個人の役割を認識し、積極的に参加している。計画的に実施し、来年度はさらに良い行事となるよう努力していきたい。 ・今年度以上に委員会活動の活性化を図り、生徒の主体的参加の機会を増やしていきたい。 ・全体的に活気のある活動が展開された。今後も挨拶など礼儀の指導に重点をおいて指導課と協力し活性化を図っていきたい。 ・ボランティア部などを中心に地域の活動に参加し今年度は特に良い成果を得ている。今後も継続した活動を行い、より多くの部活動が地域協力に参加できるように促していきたい。

評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び課題
学校保健 《保健部》	1 学校・学級環境美化 2 学校安全の充実 3 講演、実習を通じた保健指導 4 学校生活における生徒観察 5 相談しやすい保健・スクールカウンセラー室の構築	1 日常、行事前の校内巡回 2 定期考査最終日、重点清掃の実施 3 事前指導による事故発生予防意識の啓発 4 学校環境の安全点検 5 年2回のAEDを活用した救命講習、1年生対象（ハートセンター）、部代表生徒対象（救急救命士）に新任教員も受講 6 学年会の担任リポート・月間3日以上欠席者を保健日誌に記入（欠席者ファイル作成）学年主任会に提出 7 保健部（保健室）だよりの発行 8 スクールカウンセラーとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考査後、行事前後の清掃はできていたが、日常での取り組みが遅いところがあった。 ・ 行事ごとの予防啓発ポスターを発行し、生徒・教職員ともに安全意識が高められた。 ・ AEDを活用した講習会を実施できた。 ・ 学年会担任報告・月間3日以上欠席者を「月3日欠席調査」ファイルに納めて、継続的に情報把握に努める事ができた。
	保健厚生関連	1 教室の美化が学習環境を整える基本であることを1年間発信し続ける 2 日常の校内巡回の際に汚れ具合や危険、破損箇所が放置されていないか確認。 3 学校行事における健康観察や行事内容に伴う事故予防啓発資料を作成し、安全かつ健康な行事運営に積極的に貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃時間が延長されより丁寧に清掃ができるようになった。反面、目線あわせが必要であった。 ・ 体育的行事における岩塩や麦茶の支給により、体調不良者が減少した。 ・ 体育的行事翌日以降の体調不良による欠席が多かった。
	教育相談関連	1 1か月3回以上欠席者調査を継続し、クラス担任と連携を密にとり続ける 2 担任との連携の際、欠席該当者の情報だけでなく、学級全体の雰囲気や学級経営で苦戦している内容にも触れられるような会話を心がける 3 スクールカウンセラーと教職員との連携が密になる働きかけを継続していく 4 QUのデータの積極的活用（1か月3回欠席該当生徒や特別指導生徒に対する指導方法の検討）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「月3回欠席調査」ファイルを立ちあげ、従来の調査に学年会の情報を併記したデータにし、情報共有を行った。 ・ SCの積極的な担任と学年主任連携により、教室復帰のケースがあった。 ・ 次年度は、各種データを積極的に活用しSCによる早期介入を。

評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び課題
進路指導 《進路指導部》	1 志望を高く持たせる指導	1 第一志望届を一層充実させ、より高い志望を持たせ、最後まで貫き通させる。	<ul style="list-style-type: none"> この部分を含め、進路の手引きの使用は定着しつつある。更なる充実を目指すとともに、志望を高く持たせる指導を工夫していきたい。
	2 進学補習の充実	2 講座制補習の講座内容を検討し、より状況に合った講座を開講するといったフレキシブルな対応を行う。	<ul style="list-style-type: none"> さらに講座の内容を充実させたい。
	3 総合学習を利用したキャリア教育の検討	3 教務部とタイアップし、総合学習の時間を使って系統だったキャリア教育の構築を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 単発行事にとどまっている。定期行事化したい。
	4 進路の手引きの改訂（継続）	4 引き続き『進路の手引き』の内容を検討し、内容の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 新1年生からは入試制度が大きく変わるので早めに対応を始める。
	5 デジタル教材を利用した模試活用	5 デジタル教材を利用し、模擬試験にPDCAサイクルの確立を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> デジタルサービスの利用はかなり進歩した。
	1 志望校進学に向けた学習支援と学力向上	1 第一志望を考えさせ、その学校の内容をよく調べ、より内容の充実した「第一志望届」の完成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 第一志望届は内容の一層の充実とともに、志望を高く持たせる指導を工夫していきたい。
	2 模試結果の分析と検討方法の改善	2 模試のデータ、結果を共有する範囲の拡大に努め、教科担当との協力体制を強化し、受験学力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 模試検討会により、データの共有は進んでいる。さらに学力を向上させるための方策をとる必要がある
	1 低学年に於ける学力ボリュームゾーンの向上 2 Sと選抜文理との学力格差の是正 3 センター試験後の二次対策	<p>1 外部模試検討会に於いて教科別強化項目、目標値を設定し、その実現を目指す。</p> <p>2 1年次の長期休暇より、2年次選抜文理への加入を意識した講座を開講し、早期に国公立受験を意識させ、選抜文理加入者の増加を目指す。</p> <p>3 センター試験後、二次試験までの間の受験科目別、個別指導の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 模試検討会は各学年において定着が見られる。それを反映させている途中である。 1年選抜クラスにおいては実力テストまたはチェックテストを行い生徒のやる気を触発している。細やかな実力定着の程度をはかる指針のきっかけを設けた。 記述を中心に各先生方のご尽力によって現在進行中である

評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び課題
ICT環境整備及び情報活用データ管理 ＜情報センター＞	1 校務支援システムによる生徒個人データの一元管理 2 教職員用PC環境の整備、ICT推進のための環境整備 3 マークリーダーの活用範囲を広げ、効率的な利用方法を検討する。	1 生徒指導内容、外部模試成績、大学受験結果、通学方法、面談内容など各分掌と協力し3年間の活動記録を一元管理すべく、出来る内容については取りかかり、最終的な運用方法を検討する。 2 教務サーバー用PC、プリンターなどの増設を検討する。また、ICTを推進するために何が必要かを検討し、機器を揃えて推進する。 3 業務内容の効率化を図ると共に、データ化された内容の分析、利用法を確立し利用範囲を広げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時限別欠課入力を本年度より実施。さらに改善する方法を考えたい。 ・ ICT活用について、導入教室では多くの授業で活用されており、環境さえ整えば一気に進化すると思われる。そのためにも、環境を整える方策を考えたい。 ・ マークリーダーの入試活用については一応のめどがたった。 ・ 3年間の活動記録を一元管理することを目標とした1年であった。次年度も継続したい。
生徒募集 ＜入試広報部＞	1 入学者の目標数を設定し、目標達成できる生徒募集計画を作成。 2 生徒・保護者への周知を図る幅広い広報活動の実施。 3 生徒募集は全職員で行うという意識の高揚を図る。 4 全校体制での見学会に向けて、具体的な計画案の作成 5 生徒・保護者の関心を高めるチラシや案内の作成	1 過去の入学者数のデータを分析し、入学者の目標数を地域ごとに設定し、目標440名の達成を目指す。 2 見学会への参加者の増加が入学者の増加につながる。チラシやポスターを配布し、見学会などへの積極的な参加を促していく。 3 全職員参加の見学会を計画し、職員全員での広報活動であるという意識を高める。 4 見学会において、講座実施の状況や部活動実施状況などを把握し、全校体制での見学会実施に向けて職員の役割分担を作成する。 5 入学したいという意欲を持たせることができるような学校案内の作成。 6 担当者と協力し、常にホームページを確認し信頼を得られるように、データはリアルタイムで更新していくよう心掛ける。 7 興味関心が高まるチラシや案内になるようデザインや内容を見直す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推薦入学者数は増加したが、入学者数は418名で目標を下回った。一般志願者数は増加したが、入学者につながらなかったのが原因と思われる。目標を達成できる募集計画を作成したい。 ・ チラシ及びポスターの配布により見学者が増加し、受験生の増加につながった。この増加を入学者数の増加につなげる手立てを考えていきたい。 ・ 受験生が高校生活に夢を抱けるように工夫した学校案内を作成することができた。 ・ ホームページからの見学会申し込みや問い合わせが年々増加している。 ・ 新入生の中学時代の通塾校を調査し、その塾を中心に訪問塾を増やし広報に努めた。塾の先生の勧めで本校を志願する生徒の増加につながった。また、初めてホテルの会場で塾対象説明会を実施し、一帯の成果がみられた。今回の経験を次年度に生かしていきたい。

	6 塾への周知を図るとともに、関係塾に焦点を絞った広報活動	8 塾の広報誌や新聞広告などを活用し、栄徳を積極的にアピールしていく。 9 担当地区全体に資料を送付し、その中の重点塾を訪問し連携を強化する。 10 塾対象説明会の方法・内容を工夫し、効果的に開催する。	
評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び課題
学年指導 《1年生》	1 挨拶と返事ができる 2 学習習慣の確立 3 何事も継続して力とする 4 人を思いやる心を育てる	1 学習合宿・野外合宿を通して栄徳生としての心構えを育てる。 2 一日は朝学から始まり、年間通して落ち着いた学習環境を整える。 3 学校行事やクラス活動を通して、生活指導部・保健部と連携し、問題があれば早期に解決努力する。 4 人に配慮や感謝できる心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野外合宿を通して挨拶が習慣化でき、1年生ながら挨拶の習慣はついてきた。 ・ 毎朝の朝学の習慣ができてきた。 ・ 学校行事の文化祭や体育祭は、上位に入賞するクラスもあり、活気を感じられた。 ・ ネット上の問題行動が発生。友人関係を上手く作れないところもある。 ・ マナー講座を実施。敬語の使い方を学習した。今後は人を思いやる心を育てたい。
《2年生》	1 自学 授業規律・学習習慣の確立および基礎学力の向上を目指す。 2 感謝 挨拶、礼儀、服装などを基本とした主体性のある態度を養う。 3 全力 各行事、修学旅行を通じ、自己鍛錬や人間関係を通して豊かな人間性を育む。	1 栄徳アンケート及び校務分掌、各教科反省を統括し、今年度に役立て、質を向上させる。 2 朝学において自学自習を目標に掲げ、Classi では模試の成績、学習到達度などを把握させ、進路について考える能力、態度を育てる。 3 授業規律や講座制の補習を確立させ、生徒の主体性を促し、学習指導要領に沿った展開を目指す。 4 学年と進路及び教科が連携をとり、生徒が進路実現に向けて、多くの情報を得、志望理由を明確にさせる。 5 ST、HR、キャプテン育成の充実を図るとともに、基本的生活習慣を身につけさせる。 6 特化した各コースの特色を最大限に発揮し、来年度を視野に入れた生徒一人ひとり	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート調査により問題点をあげ、現状にメスを入れた。特に、2年次から特化した各コースの特色を最大限に発揮するため、担任がそれぞれにあった進路実現に向けての指導に心がけ、2学期中盤以降、受験体制が整い始めた。 ・ 朝学における協力もあり、落ち着いた環境で1時間目をスタートさせることができ、授業規律の確立に役立った。 ・ 生活指導面では、一年を通して特別指導が極めて少なく、引き続き学年全体で協力体制をとっていきたい。 ・ 欠席・遅刻については、特定の生徒が多く、転学・退学が後半に集中した。次年度の重点課題にしたい。 ・ 修学旅行を始めとした行事全般では、担任・生徒との協力体制が整い成功。次年度は、

		<p>の進路計画を提示する。</p> <p>7 担任を中心に各行事等、成功に導くための導入・実践・評価と展開させ、目標を実現させる力を育成させる。</p>	<p>卒業式に焦点を合わせた指導をしていきたい。</p>
<p>《3年生》</p>	<p><進路実現・・・栄徳を選んで良かったと思える一年に></p> <p>基礎基本を大切に、以下のような生徒を育てる</p> <p>1 挨拶がしっかりできる生徒。</p> <p>2 継続して努力できる生徒。</p> <p>3 高校生として自立できる生徒。</p>	<p>1 最高学年であることを意識した言動を意識づける。(挨拶、言葉遣い、身だしなみ等)</p> <p>2 第一志望を高く持ち、進路実現に向けあきらめない姿勢を育てる。</p> <p>3 授業を基本とし、朝学、Classiを有効活用して受験に役立てる。</p> <p>4 学習環境を整える。</p> <p>5 欠席、遅刻、早退ゼロを目指す。最後(卒業)まで学校を休まない雰囲気を作る。</p> <p>6 キャプテンを育成し、よりよいクラス運営、諸行事の成功につなげる。</p> <p>7 生徒に評価をしっかり伝える。</p> <p>8 教員同士のコミュニケーションを大切に、教科担任との連携を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業に向け、最高学年を意識した言動が見られた。 ・ 進学クラスを含め、一般入試まであきらめず取り組み、1年生からの継続した進路指導が必要であると感じた。 ・ 先生方の協力を得て、朝学を継続させることができた。Classiについてはあまり活用できなかった。 ・ クラス間の差は見られたが、概ね良好であった。 ・ 年度末に入り、欠席遅刻が増えた。3学期の卒業までの過ごし方には検討が必要である。 ・ キャプテンの育成も時間がかかる。3年間を見通しての指導不足を感じる。 ・ 各先生との連携をもっと図る必要がある。